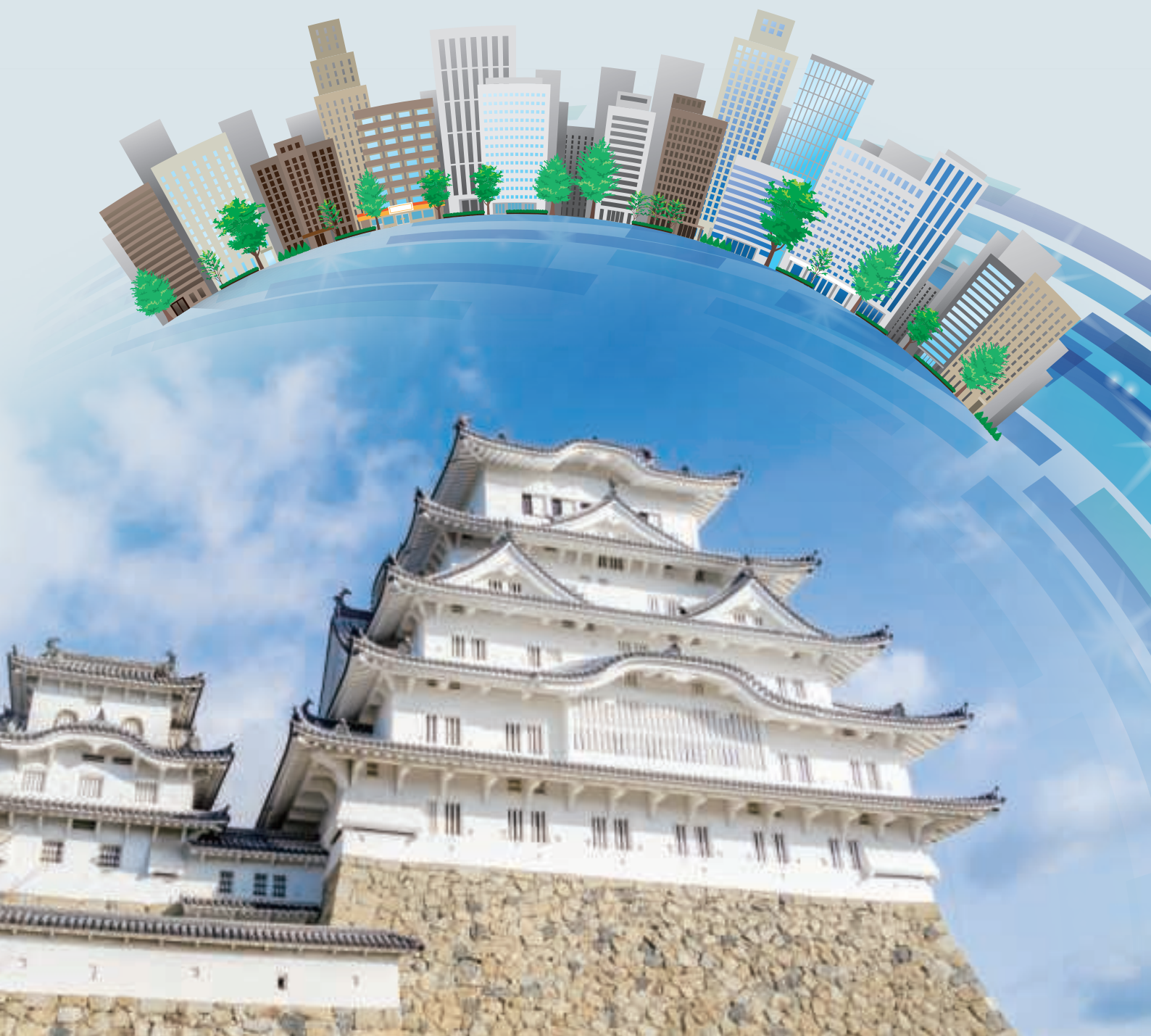


# 姫路市経済振興ビジョン

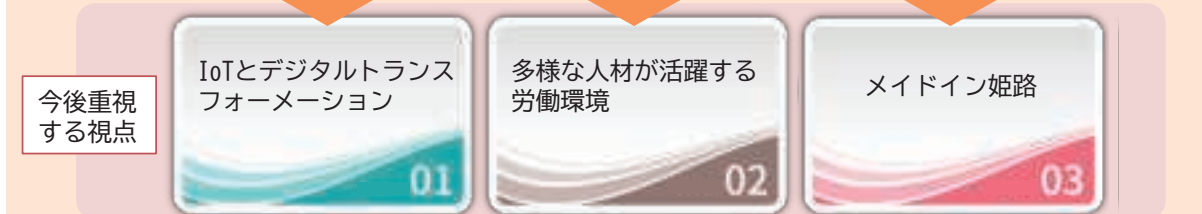
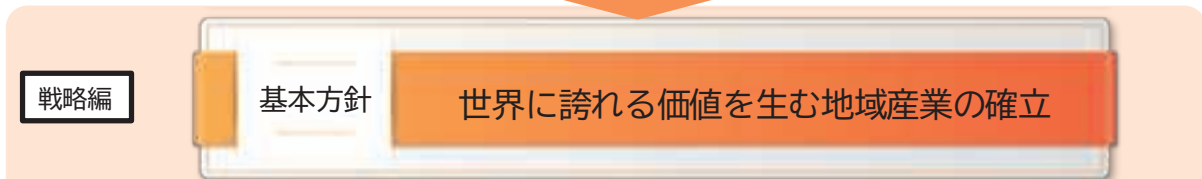
概要版



令和3年(2021年)3月  
姫路市

# I. ビジョンの全体像

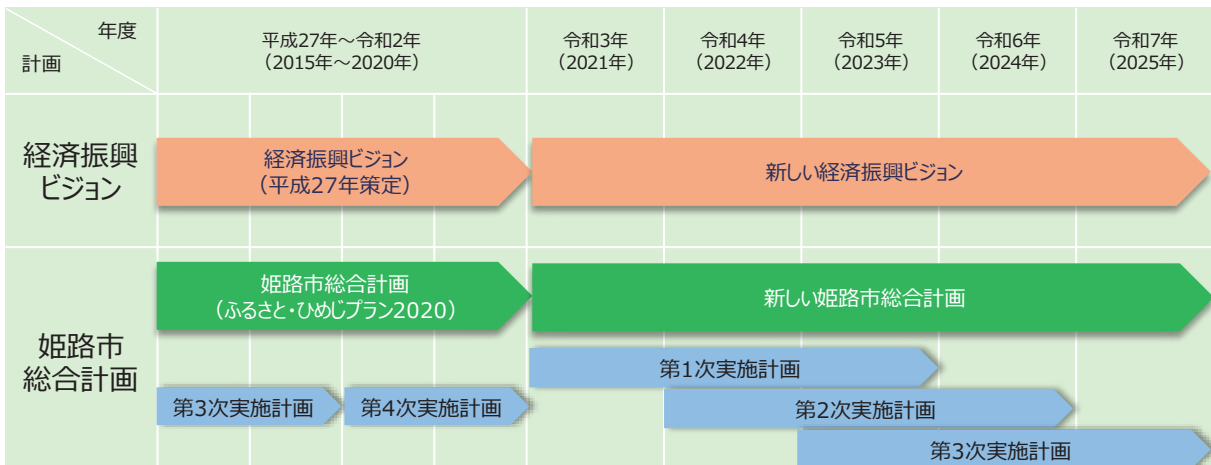
分析編では外部環境、内部環境の分析、これまでの市の取組の総括を行います。戦略編では、これらの分析を踏まえ、今後姫路市が経済振興に取り組むための基本方針、今後重視する視点、基本方針に基づく政策と施策を提示します。



## II. 策定の趣旨と位置づけ

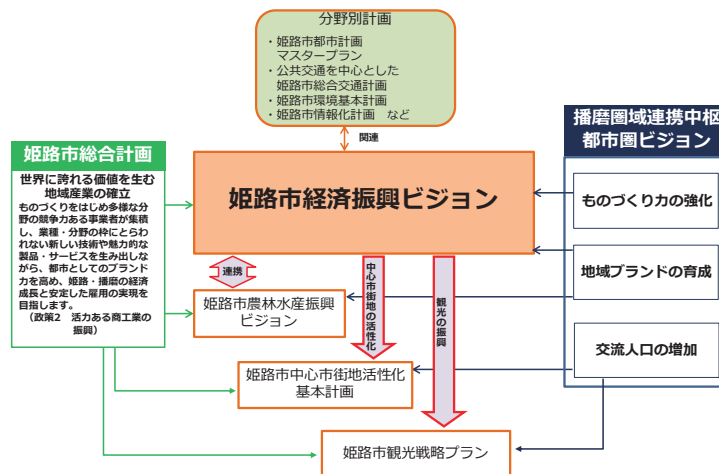
### 1. 策定の趣旨

姫路市では、地域経済の安定化と持続的な発展を目指し、平成27年（2015年）に「姫路市経済振興ビジョン～姫路市ものづくり戦略～」(以下、「平成27年ビジョン」という。)を策定し、各種産業施策を展開しています。令和3年度（2021年度）から市の最上位計画である新たな総合計画の策定に合わせて、市内経済界関係者や有識者等の意見等を踏まえつつ、新たな経済振興ビジョン（以下「新ビジョン」という。）を策定します。新ビジョンはコロナ禍により影響を受けた地域経済の復興やデジタル改革やグリーン社会の実現など成長力強化につながる幅広い分野の経済振興に取り組むためのビジョンとします。



### 2. ビジョンの位置づけ

新ビジョンは、「姫路市総合計画」（令和3年度（2021年度）～令和12年度（2030年度））における、産業分野「世界に誇れる価値を生む地域産業の確立」の政策2「活力ある商工業の振興」に係る分野別計画として位置づけられるものです。また、「播磨圏域連携中枢都市圏ビジョン」の経済戦略に掲げられた方向性「ものづくり力の強化」「地域ブランドの育成」とも整合を図り、姫路市経済と播磨圏域経済の両方をけん引することを目指します。



### 3. 計画期間

新ビジョンは、令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）を計画期間とします。また、急激な経済情勢の変動に対応するため、適宜見直しを行うこととします。

### III. 分析編

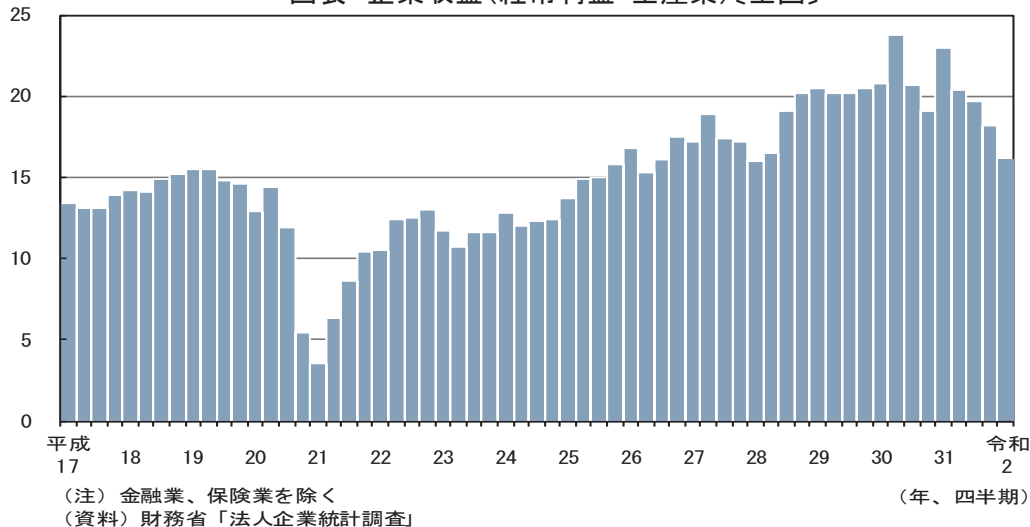
#### 1. 姫路市経済をとりまく経済情勢（外部環境）

##### ◎景気変動と新型コロナウイルス感染症による影響

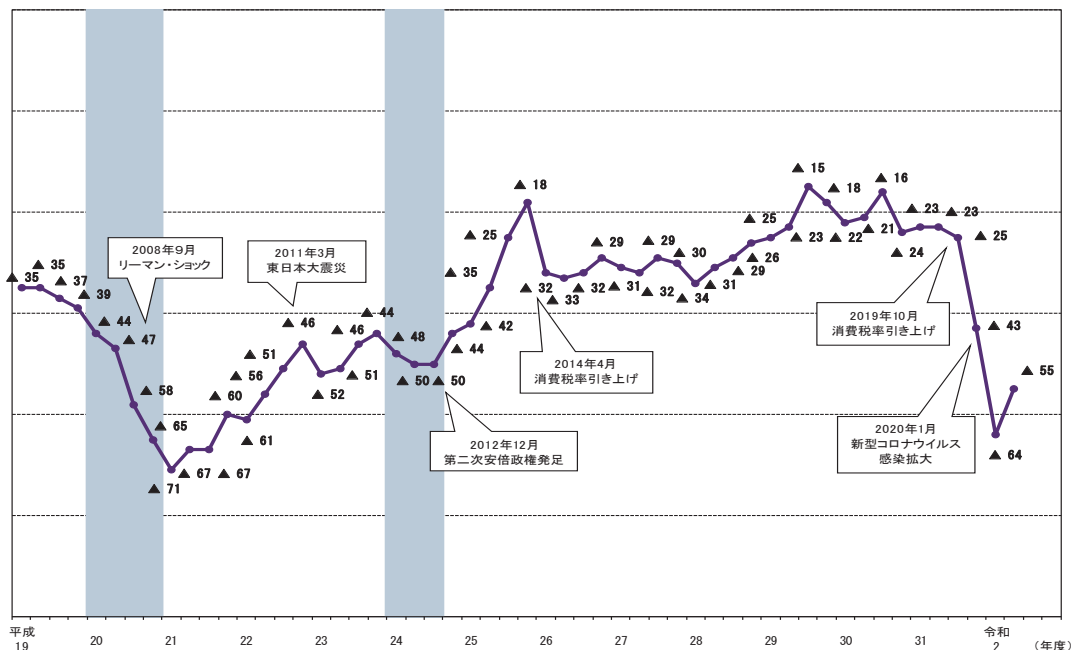
平成 25 年（2013 年）4 月に日本銀行が「量的・質的金融緩和」を実施して以降、長期金利は大幅な低下、円安、企業収益の改善により、景況感も好転するなど、回復傾向にありましたが、平成 26 年（2014 年）4 月と令和元年（2019 年）10 月の消費税の引き上げに伴い、我が国経済の長期的な回復トレンドは転換点に差し掛かりました。

令和 2 年（2020 年）に世界的に流行した新型コロナウイルス感染症が実体経済に甚大な影響を与え、直近の景況感は全国的に大きく急落しました。姫路市内の企業においてもその影響は大きいものと見られます。

（兆円、季節調整値） 図表 企業収益（経常利益・全産業）〔全国〕



図表 姫路市内の業況 DI の長期推移



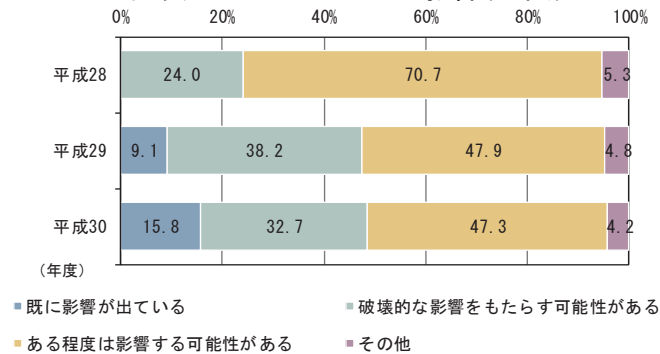


## ◎人口減少と働き方改革、デジタルトランスフォーメーション

戦後増加し続けていたわが国の人口は減少局面に入っています。令和 37 年（2055 年）には 1 億人を切ると推計されており、国内市場の縮小、労働力の不足が懸念されます。

また、長時間労働型の日本の労働環境が見直され、残業時間の規制が設けられ、令和 2 年度（2020 年度）からは規制の対象が中小企業に広がったため、業務プロセスの見直しや IT ツールの利活用による生産性の向上が日本企業の共通課題となっています。特に社内のデジタル人材の不足を感じる企業や、自社の既存ビジネスの優位性や競争性に危機感を感じている企業が増えています。

図表 デジタル化による影響[全国]



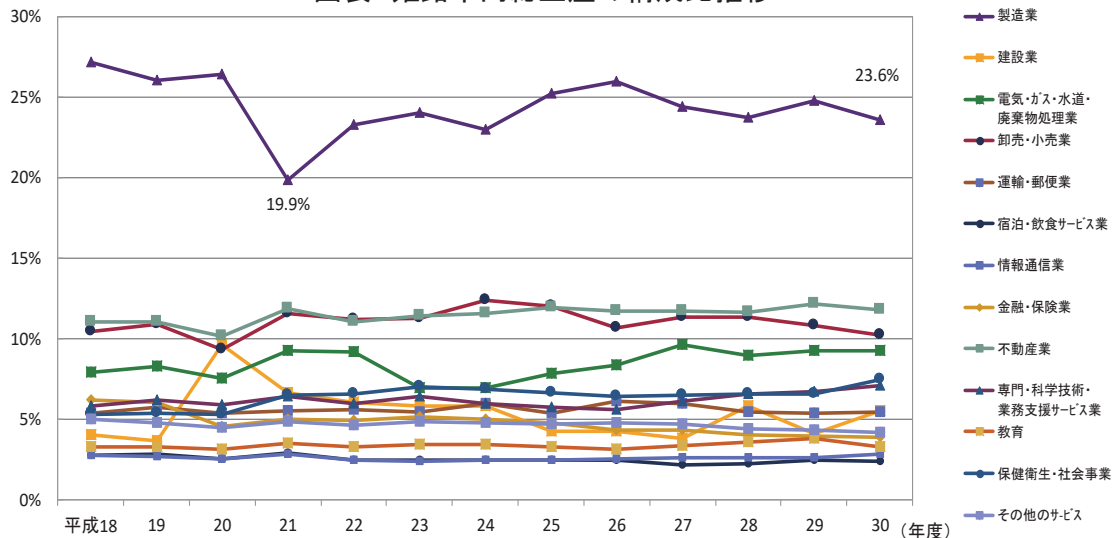
## 2. 姫路市における経済・雇用情勢（内部環境）

### ◎姫路市の産業の特徴

姫路市は、市域に様々な顔を持つ自然環境を有し、農水産物などの地場産物のほか、環境を活かした清酒や皮革など多様な産業が存在しています。特に臨海部には製造業が厚く集積しており、姫路市の産業の中心となっています。

市内総生産に占める製造業の比率は平成 30 年度（2018 年度）では 23.6%です。この比率は国全体では 20.8%となっており、姫路市はこの数値を上回っています。このことから、全国的に見ても「ものづくり」が盛んな都市であることがうかがえます。

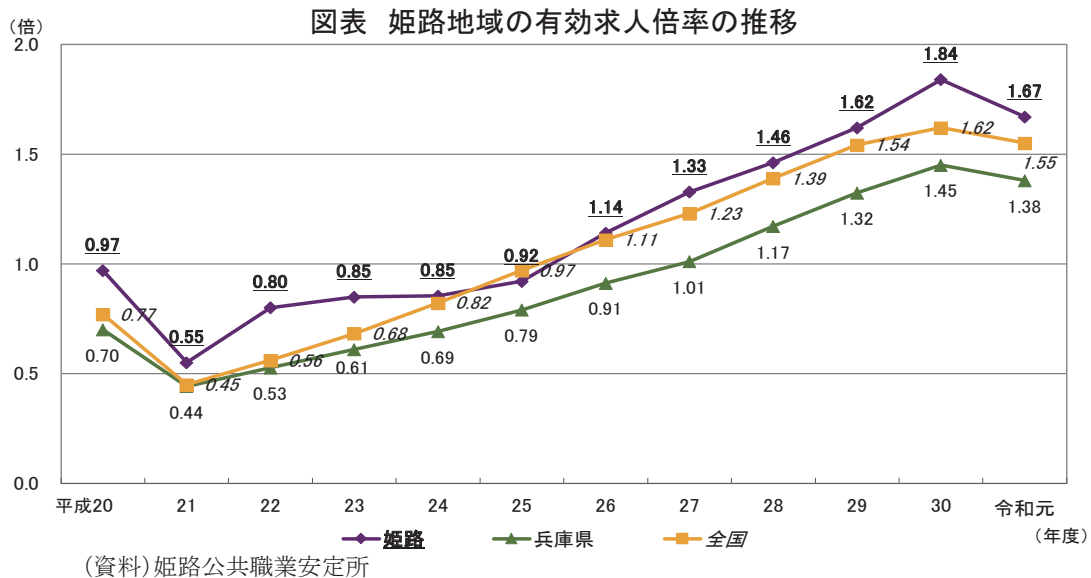
図表 姫路市内総生産の構成比推移



(資料)兵庫県「市町民経済計算」

## ◎姫路市の労働・雇用状況

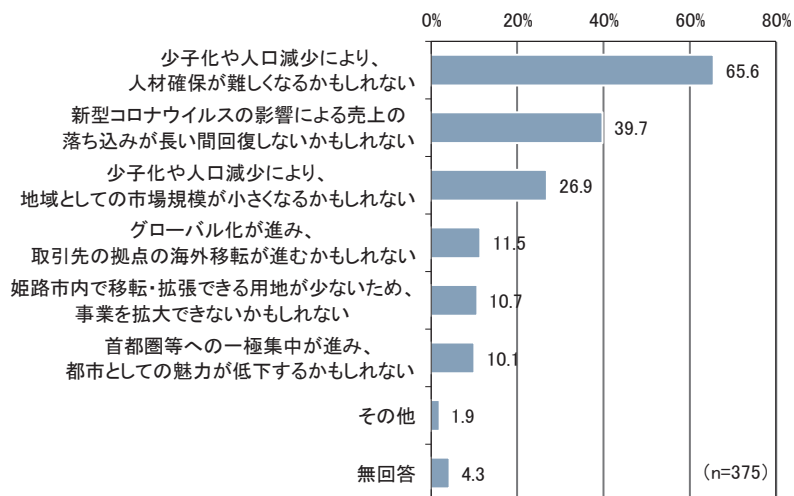
姫路地域における有効求人倍率は、リーマン・ショックを契機とする世界的な景気の後退により落ち込み、平成 21 年度（2009 年度）には 0.55 倍となりましたが、その後増加に転じ、平成 30 年度（2018 年度）は 1.84 倍に達しました。しかし、令和元年度（2019 年度）は新型コロナウイルス感染症の流行が要因の一つとなり大きく減少し 1.67 倍となりました。令和 2 年度（2020 年度）も同様に大きく下落しており、今後の動向を注視する必要があります。



## ◎姫路市が直面する社会構造の変化(労働力人口の減少と人手不足)

姫路市の人口は、近年わずかに減少しつつあり、少子高齢化も着実に進行しています。市内企業アンケート調査では、回答した企業 375 社のうち約 66%が、「少子化や人口減少により、人材確保が難しくなるかもしれない」をあげるなど、人口減少局面において労働力の確保は、企業の懸念材料として長期的には、大きな関心が寄せられるものと思われます。

図表 姫路市で事業を続ける上で心配していること(複数回答)



(資料)姫路市「姫路市経済振興ビジョン策定に向けた市内企業アンケート調査」(令和2年)

### 3. 現状分析の総括

これまでの分析（外部環境、内部環境、現行ビジョンの検証、企業アンケート結果）を踏まえ、姫路市が今後も価値を生み出していくためには、以下の3つの点が重要になると考えられます。

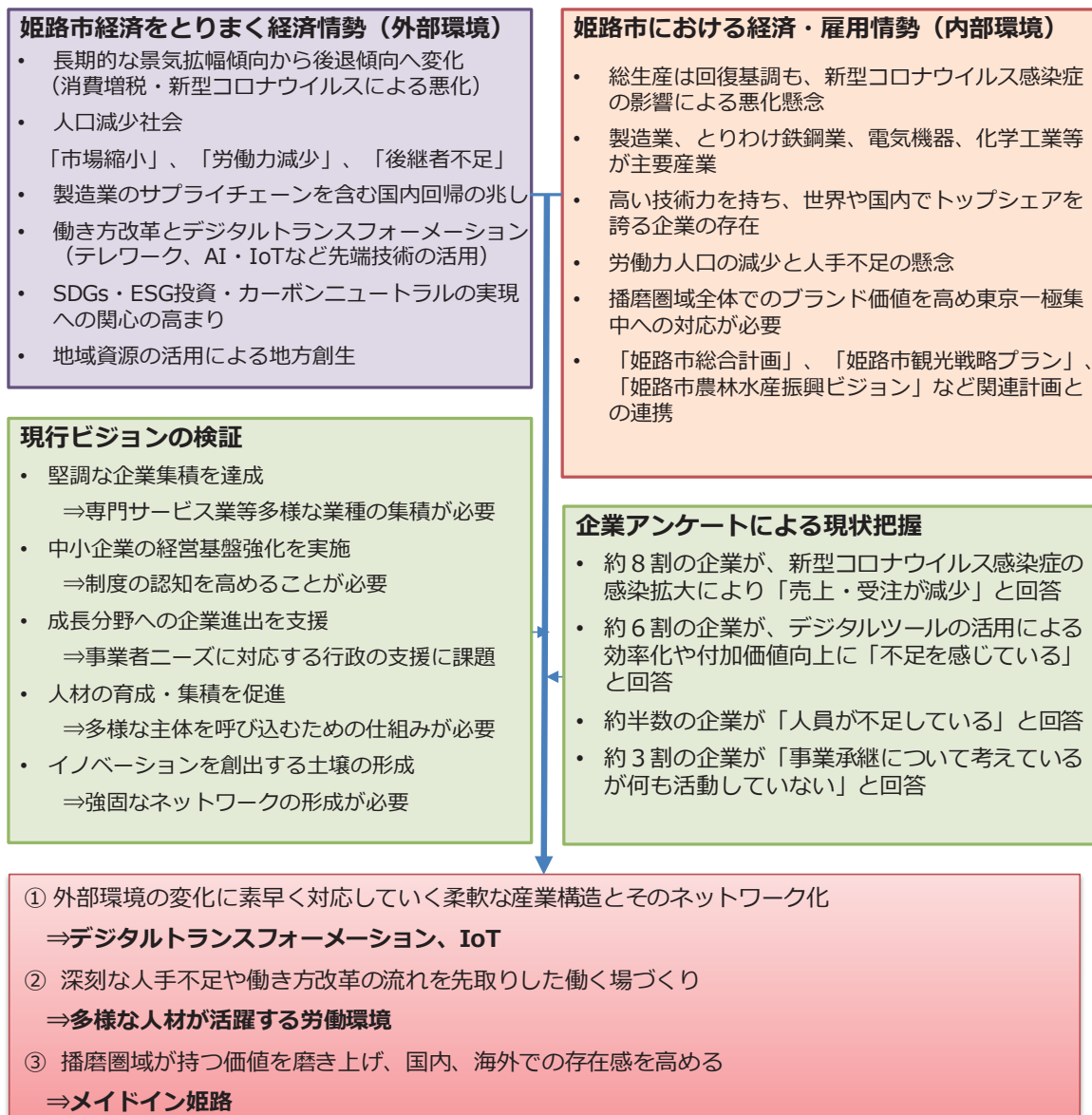
まず、デジタルトランスフォーメーションに代表されるような、外部環境の変化に素早く対応していく柔軟な産業構造とそのネットワーク化を実現することです。

次に、深刻な人手不足や働き方改革の流れを先取りし、女性や高齢者、外国人などを含む多様な労働者が十分に活躍できる環境を率先して作って行くことが必要です。

3つ目に播磨圏域全体が持つ価値をより一層磨き上げ、国内、海外での存在感を高めていくことが、これからの姫路市の産業に求められています。

これらのことに留意しながら、以下の戦略編では上記3点に基づく今後重視する視点と具体的な戦略を立てていきます。

図表 現状分析の総括



## IV. 戦略編

### 1. 基本方針

#### 世界に誇れる価値を生む地域産業の確立

日本を代表するものづくり都市として、競争力のある企業が新しい技術や市場のニーズを取り入れ、商品やサービスを生み出すことで活発に活動し、そこで活躍する多様な人材が世界に誇れる価値を生み、その富が地域に還元される産業構造の確立を図ります。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、緊急経済対策として実施してきた「足元の対策」や「未来への投資」も踏まえながら姫路市の経済振興施策を展開します。



### 2. 今後重視する視点

Ⅲ. 分析編による分析、平成 27 年ビジョンの振り返り等を踏まえ、次の 3 つを掲げます。

#### (1) IoT とデジタルトランスフォーメーション

企業が次の時代を生き残り、さらなる発展を遂げていくためには、デジタル化への対応が不可欠です。企業自身の変革とともに、その変革を支え・促進していくこと自体が企業にとって新たなビジネスチャンスと捉えることもでき、企業に対して変革と参入を促していきます。

#### (2) 多様な人材が活躍する労働環境

姫路市に立地する事業者は多様な能力を有する有能な人材を求めており、これらの人材を確保するためには、働きやすい環境を確保することが必要です。そのための環境整備や、「新しい生活様式」に対応するテレワーク等の制度・環境整備など、時代の要請に応じて多様な人材が活躍できる環境を整えます。

#### (3) メイドイン姫路

姫路市は世界文化遺産である姫路城の存在で全国にその名が知られた都市と言えます。現在推進している「醸す 造る 播磨」事業等を更に充実させ、市内内外に「ものづくりのまち」としての認知度向上に努め、市内企業の製品の付加価値化や人材確保、企業誘致等に繋がります。



### 3. 基本方針に基づく政策と事業イメージ

上で掲げた基本方針に基づき、以下の5つの政策を推進します。

政策1	先端技術を活用したものづくり産業の革新と成長産業への参入促進
政策2	地域に根ざす中小企業・地場産業の安定的な経営基盤の確立
政策3	地域経済の発展を支える企業集積の推進と物流・交流機能の充実
政策4	産業人材の確保・育成と時代に合わせた労働環境づくり
政策5	地域経済に新たな活力を生む創業支援

#### 政策1 先端技術を活用したものづくり産業の革新と成長産業への参入促進

平成27年ビジョンで掲げた「ものづくり戦略」に示されるとおり、姫路はものづくり産業に特化した強みを持っていますが、新技術・先端技術を積極的に取り入れて競争力をつける必要があります。

デジタル化による競争力の強化や成長産業への参入促進など企業における強みの育成のほか、播磨圏域の強みを活かした連携の強化、ものづくり産業「以外」の事業者との共創を進めるなど、これまでの取組みを踏まえつつ、新たな取組みを着実に進めていきます。

また、国が宣言した「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて「経済と環境の好循環」を作っていくため、既に実用化されている再生可能エネルギーのさらなる普及を押し進めるとともに、水素をはじめとする次世代エネルギーに対する社会的受容性の向上や足元の水素需要の拡大を産業界から率先して動きだせるよう産業構造への変革をもたらす取組みを促進します。

#### 政策2 地域に根ざす中小企業・地場産業の安定的な経営基盤の確立

経済のグローバル化の進展など、厳しい環境の中で、中小企業が存続し、成長していくためには、しっかりとした経営基盤を確立する必要があります。また、労働人口の減少や高齢化が進む中で、中小企業においても後継者や後継者候補となる若い中小企業経営者候補の育成が課題となっています。また、近年増加している自然災害や感染症の拡大など不測の事態が発生した場合であっても、事業を継続できるように備える必要があります。

こうした背景を踏まえ、後継者の確保、非常時における事業継続へ向けた支援など、中小企業が安定的に経営を行える環境づくりを進めていきます。

#### 政策3 地域経済の発展を支える企業集積の推進と物流・交流機能の充実

企業のニーズは業種や置かれている状況によっても変わります。これらのニーズを適切に把握し、企業への支援を行っていくことが必要です。

多様な雇用を生み出し、経済活動を通じて地域を発展させる企業を姫路市内に集積させるため、これから立地する企業や既に立地している企業のニーズを把握してその拡大に資する支援策を講じるほか、物流や交流機能等の充実を通じて姫路市の操業環境を整えます。

## 政策4 産業人材の確保・育成と時代に合わせた労働環境づくり

今後、労働力人口の減少が進む中、働き手1人あたりの生産性の向上や働き手の確保が課題となると見込まれます。そこで、姫路市がものづくり都市として今後も発展し続けるためには、人材の育成や多様な人材が活躍できる環境づくりが重要となってきます。

このような観点から、市内企業の魅力発信などを通じて、姫路市に人材が集まる取り組みを推進するとともに、企業における多様な人材の活用や確保、育成の取り組みのほか、中小企業の福利厚生の実施に向けて積極的に支援します。

## 政策5 地域経済に新たな活力を生む創業支援

少子高齢化や環境・エネルギー問題等新たな課題に対応するためには企業への支援だけでなく、新しいチャレンジをする個人を育てていくことが必要です。

個人や企業の起業・第二創業といった取組みを、国や県、商工会議所等の関係機関と連携して促進することで、既成概念にとらわれない新たな活力を地域経済にもたらしめます。

## 4. 評価指標

### (1) 事業の進行管理

ビジョンの実現に向けた進行管理については、事業の所管部局において事業ごとに目標を設定し、その達成状況をみながら次年度の改善に繋げていくという PDCA サイクルの手法を用います。

### (2) 評価指標の設定

評価指標としてモニタリングする「注視する経済指標」と各施策に紐づく「KPI 指標」を設けます。

#### 注視する経済指標

経済指標	現状値	出典となる調査
市内総生産	2,411,514 百万円 (R1)	市町民経済計算
製造品出荷額等の 全国（県内）シェア （3年平均）	全国：0.74% 県内：14.97% (H28~H30)	工業統計調査
付加価値額	58,239,064 万 (R1)	工業統計調査
卸売業、小売業 年間商品販売額	1,682,358 百万円 (H28)	経済センサス
市内事業所数（製造業）	926 件 (R1)	工業統計調査
市内従業者数（製造業）	48,424 人 (R1)	工業統計調査
有効求人倍率	1.67 (R1)	姫路公共職業安定所調べ

## KPI 指標

政策1 先端技術を活用したものづくり産業の革新と成長産業への参入促進		
指 標	現状値	目標値 (令和7年度末)
企業の IT 化推進関係補助事業実施率 (関連予算執行率：5か年度平均)	68.1%	90.0%
姫路ものづくり支援センター相談件数 (5か年度平均)	1,004 件	1,050 件
政策2 地域に根ざす中小企業・地場産業の安定的な経営基盤の確立		
指 標	現状値	目標値 (令和7年度末)
ものづくり開発奨励申込件数 (5か年度平均)	11 件	13 件
プロモーション、商談会による契約成立件数 (見込みを含む) (5か年度平均)	2 件	5 件
政策3 先端技術を活用したものづくり産業の革新と成長産業への参入促進		
指 標	現状値	目標値 (令和7年度末)
工場立地件数 (工場立地促進制度の適用件数) (3か年度平均)	39 件	39 件
マザー工場に係る工場立地促進制度の事業指定件数 (3か年度平均)	5 件	5 件
政策4 産業人材の確保・育成と時代に合わせた労働環境づくり		
指 標	現状値	目標値 (令和7年度末)
姫路市のマッチング事業に関する入社決定数 (5か年度累計)	—	150 人
女性 (30～39 歳) の有業率	64.9%	現状値を超える
政策5 地域経済に新たな活力を生む創業支援		
指 標	現状値	目標値 (令和7年度末)
姫路創業ステーションへの相談件数 (5か年度平均)	740 件	790 件
姫路市が関わる支援を利用した創業件数 (5か年度平均)	144 件	158 件



# 姫路市経済振興ビジョン

発行 姫路市 産業局商工労働部産業振興課  
〒670-8501 姫路市安田4丁目1番地  
発行年月 令和3年(2021年)3月

